

## モンゴル歴史年表

- 1162 テムジン誕生。(1155年、1161年、1167年説あり。)
- 1189 テムジン、モンゴル諸部族のハーンに即位しチンギス・ハーンと称する。  
チンギス・ハーンとジャムカの戦い。(十三翼の戦い)
- 1190 耶律楚材が生まれる。
- 1196 タタル族、金朝に叛乱。  
チンギス・ハーン、ケレイト族と共同で金朝を支援しタタル族を討つ。
- 1201 ジャムカ、グル・ハーンを称する。  
ジャムカ、チンギス・ハーンと決戦するも敗退。(コイテンの戦い)  
チンギス・ハーン、タイチウト族を滅ぼし、オンギラト族を臣従させる。
- 1202 チンギス・ハーン、タタル族を討伐。
- 1203 チンギス・ハーン、ケレイト族を撃破。トオリル・ハーン戦死。
- 1204 チンギス・ハーン、ナイマン族を討伐、ダヤン・ハーン戦死。  
タタトングを配下としウイグル文字を導入。
- 1205 ジャムカ、チンギス・ハーンに捕えられ刑死。  
モンゴル軍、第一次西夏遠征を行う。
- 1206 チンギス・ハーン、全モンゴルを統一。オノン河畔でクリルタイを開催し第二次即位を行う。
- 1208 モンゴル軍、メルキト族の残党を滅ぼし、オイラート族を臣従させる。
- 1209 モンゴル軍、第三次西夏遠征を行う。西夏皇帝・李安全が降伏。
- 1211 ウイグル王国、カカルク族がモンゴルに臣従。  
チンギス・ハーン、金朝との戦争を開始する。
- 1212 ナイマンのクチュルク、西遼を篡奪。
- 1214 モンゴルと金が和議。金、首都を燕京から開封に南遷する。湛然居士・耶律楚材が聖安寺澄和尚を介して、万松禪師行秀に師事するをえて、禅を学び、「正統派禅宗仏教徒」を自認する。
- 1215 モンゴル軍、燕京を攻略。耶律楚材がチンギス・ハーンに仕える。「吾図撒合里」 [Urtu sahal] という愛称を与えた。意味は長髯人、長い髯の人である。
- 1217 チンギス・ハーン配下のムカリ、「国王」に任じられ中国経略を一任される。
- 1218 チンギス・ハーン配下のジェベ、クチュルクを滅ぼしトルキスタンを平定。トルキスタンのムルリムは、クチュルクの宗教弾圧から解放され、ジェベを歓迎した。  
モンゴルがホラズムに送った隊商 500 人が虐殺される (オトラル事件)。『蒙古秘史』には、チンギス・ハーンの使節 100 人としているので、残りの 400 人は商売をやる商人たちであった。  
モンゴル、高麗を従属させる。
- 1219 チンギス・ハーン、ホラズム・シャー王国アッラ・ウッディン・ムハンマドの討伐に出発。(大西征の始まり)
- 1220 モンゴル軍、サマルカンド (現在のウズベク) をはじめホラズム諸都市を攻略。  
ホラズム王ムハンマドが逃走中に窮死。
- 1221 ホラズム王子ジャラルール・ウッディンがモンゴル軍を破る。(バルヴァーンの戦い)  
チンギス・ハーンがインダス河畔でジャラルールを撃破。
- 1222 チンギス・ハーン、長春真人と会見する。道教の全真道に特権を与える。
- 1223 スブタイ・ジェベのモンゴル軍がルーシ諸侯軍を撃破。(カルカ河畔の戦い)
- 1225 チンギス・ハーン、モンゴル本土に帰還。(大西征の終わり)  
高麗に送ったモンゴルの使節が殺害される。(鴨緑江事件)
- 1226 チンギス・ハーン、第五次西夏遠征を開始。
- 1227 チンギスの長子・ジュチがキプチャク草原で病没。  
チンギス・ハーンが病没。その直後に西夏が滅亡する。
- 1228 耶律楚材『西遊録』を完成 (戊子)。
- 1229 オゴタイがモンゴル帝国の第 2 代大ハーンとなる。
- 1230 オゴタイ・トルイが金国遠征を開始。
- 1231 モンゴル軍、高麗に遠征。屈服させて 72 人の知事 (ダルガチ) を設置。  
ジャラルールが殺され、ホラズムが完全に滅亡する。
- 1232 モンゴル軍、金軍主力を壊滅させる。(三峯山の戦い)  
トルイが急逝。  
高麗、ダルガチを殺害しモンゴルに対する徹底抗戦を宣言。
- 1233 モンゴル軍、金の首都・開封を攻略。

- 1234 モンゴル・南宋連合軍、金を完全に滅ぼす。  
南宋が開封を攻撃、対南宋戦が始まる。
- 1235 モンゴル帝国の首都・カラコルムが建設される。
- 1236 バトゥを総司令官としたヨーロッパ遠征軍が出発。
- 1237 ヨーロッパ遠征軍、キプチャク族のバチュマンを撃破。
- 1238 ヨーロッパ遠征軍、ウラディミール大公ユーリー2世を撃破。(シティ河畔の戦い)
- 1239 ヨーロッパ遠征の陣中でグユクが総司令のバトゥに反抗し本国召還される。
- 1240 ヨーロッパ遠征軍、キエフを攻略。
- 1241 ヨーロッパ遠征軍がドイツ・ポーランド諸侯連合軍を撃破。(ワールシュタットの戦い)  
ヨーロッパ遠征軍がハンガリー王ベーラ4世を破る。(サヨ河畔の戦い)  
オゴタイ・ハーンが病没。
- 1242 ヨーロッパ遠征軍が帰国。  
オゴタイ皇后トレゲネが監国となる。チャガタイ病死。  
テムゲ・オッチギンがハーン位を窺うも失敗。
- 1243 バトゥ、南ルーシ・キプチャク草原を支配しキプチャク・ハン国を興す。
- 1244 夏六月、中書令耶律楚材死。
- 1245 Lyon で、フレンド(菲烈徳)二世(Frédéric II)が廃除され、インノセント四世(Innocent IV因諾曾爵四世)が教王になる。
- 1246 グユクがトレゲネの後援で第3代の大ハーンに即位する。  
フランシスコ会(Franxiscains 方濟各)修道士プラノ・カルピニ(Jean du Plan Carbin)がグユクと会見、親書を得る。
- 1247 ドミニコ(Dominicains 多明我)会修道士アスラン(Ascelin de Lombardie)が西アジアのモンゴル司令官と会見、交渉決裂。
- 1248 グユク、西征途上で急逝。(バトゥによる暗殺説が有力視される)
- 1249 グユク皇后オグルガイミシュが監国となる。  
トルイ家・ジュチ家がモンケを大ハーンに推挙するもオゴタイ家・チャガタイ家が反対する。
- 1251 トルイ家のモンケ、第4代の大ハーンに即位する。
- 1252 モンケ、反対派のオゴタイ・チャガタイ家に対し大量粛清を強行。  
オグルガイミシュ・チャガタイ家当主イス・モンケが処刑される。
- 1253 フランシスコ修道会のルブルクがモンケに謁見。  
フラグ、西アジア遠征に出発。フビライ、大理遠征に出発。
- 1254 フビライ、大理を攻略し雲南を平定。
- 1256 高麗がモンゴル帝国に屈服。  
フビライ、開平府(上都)を建設し拠点に定める。  
フラグ、イスマイル派を滅ぼす。
- 1257 モンケ、南宋親征を決定する。  
ウリヤンハタイ軍、陳朝の首都・昇竜を攻略。
- 1258 フラグ、バグダードを攻略。アッバース朝の滅亡。  
陳朝の太宗がモンゴル帝国に朝貢する。
- 1259 モンケ、南宋攻略中に釣魚山で陣没。  
高麗の元宗がフビライに臣従。
- 1260 フビライが上都で、アrikブカがカラコルムで大ハーン即位を宣言。  
両者による大ハーン位継承戦争が始まる。  
アイン・ジャールートの戦い。シリアの мамルーク軍がモンゴル軍を破る。
- 1261 フラグがタブリーズで自立、イル・ハン国を創始する。
- 1262 漢人軍閥・李壇の叛乱。  
キプチャク・ハン国とイル・ハン国との間で戦端が開かれる。
- 1264 アrikブカがフビライに降伏しフビライの大ハーン地位が確定。  
フビライ・ハーン、燕京を中都と改名し暫定の首都とする。
- 1265 フラグ急逝、アバカが第2代のイル・ハン国のハーンに即位。
- 1266 ボラクがフビライの命でチャガタイ・ハン国に派遣されるも、自立。  
オゴタイ家のハイドゥ、フビライとの対決姿勢を表明。(ハイドゥの乱の始まり)
- 1267 フビライ・ハーン、首都・大都の建設を開始。
- 1268 フビライ・ハーン、高麗を介して日本に使者を送る。  
アジュ・史天沢率いる南宋征討軍が襄陽を包囲。

- 1269 タラス河畔の会盟。ハイドゥ・ボラク・キプチャク・ハン国が盟約を結ぶ。  
フビライ、パスパ文字を国号として公布。
- 1270 ボラクがイル・ハン国征服の軍を興すも、アバカに大敗。(カラ・スウ平原の会戦)
- 1271 フビライ・ハーン、国号を「大元」と定める。  
オゴタイ家のハイドゥがチャガタイ家のボラクを殺害。
- 1273 大元オルス、高麗の叛乱軍・三別抄を鎮圧。
- 1274 大元オルス、将軍バヤンを総司令に南宋征服の軍をおこす。  
大元オルス、高麗を実質的に臣従させる。  
大元オルス、日本に出兵(文永の役)。
- 1276 バヤン、南宋の首都・臨安を降伏させる。  
モンケの子・シリギの反乱が勃発。
- 1277 大元オルス、ビルマに遠征しバガン朝に大勝する。(ナサウンジャンの戦い)
- 1279 張弘範率いる元軍が南宋を完全に滅ぼす。(厓山の戦い)
- 1280 キプチャク・ハン国のマング・ティムールが没する。
- 1282 大元オルス、2度目の日本遠征を敢行し失敗。(弘安の役)  
大元オルス、チャンパーに侵攻。  
イル・ハン国王のアバカが没する。
- 1283 ドゥアがチャガタイ・ハン国の当主となる。
- 1285 元軍、ベトナムに侵攻するも失敗。
- 1286 フビライ庶子トゴン率いる元軍が再度ベトナムに侵攻。
- 1287 東北アジアでナヤンの反乱が勃発(～1292)。  
大元オルス、ビルマのパガン朝を滅ぼす。
- 1288 元軍、ベトナムに大敗。(白藤江の戦い)
- 1292 大元オルス、ジャワ島に遠征するも翌年失敗。
- 1294 フビライ・ハーンが没する。孫のテムルが第2代大元オルスハーンに即位。
- 1295 ガザンが第7代イル・ハン国王となり、同国のイスラム化が推進される。
- 1299 キプチャク・ハン国のハーン・トクタが権臣ノガイを殺す。
- 1301 元軍、ハイドゥ・ドゥア連合軍を撃破。ハイドゥ死亡。
- 1303 元、ドゥアと和睦。(ハイドゥの乱終結)
- 1307 テムルの甥・カイシャンが第3代大元オルスハーンに即位。
- 1308 チャガタイ・ハン国のドゥア、オゴタイ・ハン国を滅ぼす。  
大元オルスを中心としたモンゴル帝国の再統合が成る。
- 1311 カイシャンが没する。アユルバルワダが第4代大元オルスハーンに即位。
- 1313 キプチャク・ハン国でウズベクが即位(～41)、同国の最盛期。
- 1320 アユルバルワダの子・シディバラが第5代大元オルスハーンに即位。
- 1323 シディバラが暗殺される。イスン・テムルが第6代大元オルスハーンに即位。
- 1328 大元オルスのイスン・テムルが没し、カイシャンの2人の息子がハーン位を争う。(天暦の内乱)
- 1330 大元オルスで軍閥政治が始まり、ハーンの権威が凋落する。  
チャガタイ・ハン国が遊牧派と定住派の対立で東西に分裂。
- 1333 トゴン・テムル、第10代の大元オルスハーンとなる。
- 1335 イル・ハン国の直系が断絶、同国が無政府状態に陥る。
- 1340 イル・ハン国の部将シャイフ・ハサンがジャライール朝を興す。
- 1346 東チャガタイ・ハン国のトゥグルク・チムールがチャガタイ・ハン国を再統一(～63)。
- 1350 大元オルス、紙幣改革に失敗し国内インフレが悪化。
- 1351 紅巾の乱勃発、大元オルスの中国支配が致命的打撃を受ける。
- 1353 イル・ハン国が滅亡。
- 1360 この頃、キプチャク・ハン国が分裂状態になる。
- 1362 ココ・テムル、大元オルスの軍権を掌握。
- 1363 ティムール、サマルカンドを占領し西チャガタイ・ハン国をほぼ掌握。
- 1368 朱元璋が明朝を創始、大元オルス討伐を敢行。  
トゴン・テムル、首都・大都を放棄しモンゴル本土に逃走。
- 1370 ティムールが中央アジアを制圧、ティムール帝国が成立。  
元の大ハーン・トゴン・テムル、逃亡先の応昌府で病死。  
アユルシリダラがカラコルムで大ハーンに即位する。
- 1372 元の将軍ココ・テムルが明の遠征軍を撃退。
- 1374 ジャライール朝の第2代スルタン・ウワイスが没する。

- 1376 ティムール、キプチャク・ハン国の内紛に干渉しトクタミシュを援助する。
- 1378 アユルシリダラが没する。弟トクズ・テムルがモンゴル・オルスの大ハーンとなる。
- 1380 ママイ率いるキプチャク・ハン国の軍勢がモスクワ公国に敗れる。(クリコヴォの戦い)
- 1381 トクタミシュがママイを殺し、キプチャク・ハン国を再統一する。
- 1382 トクタミシュ、モスクワを占領。
- 1386 ティムール、西アジアに遠征。(～89年、3年戦役)
- 1387 明朝が吉林省へ侵攻し、ナガツォの率いるオリヤンハイが明朝に投降し、オリヤンハイ三衛に分割され、モンゴルの分裂が始まる。
- 1388 トクズ・テムル、明朝に大敗。  
トクズ・テムルがアリクブカの子孫イスデルに殺され、モンゴル・オルスの嫡流が断絶。
- 1389 トクタミシュ、ティムール帝国に侵入。
- 1391 ティムール、南ルーシに遠征しトクタミシュを破る。
- 1392 ティムール、南ルーシ・西アジアに遠征。(～96年、5年戦役)
- 1395 ティムール、トクタミシュを撃破しキプチャク・ハン国を蹂躪。
- 1398 ティムール、インドに遠征しデリーを略奪。
- 1401 ティムール、ダマスカスを占領、バグダードを破壊。
- 1402 ティムール、オスマン・トルコを破りバヤジット1世を捕虜にする。(アンカラの戦い)
- 1405 ティムール、明遠征の途上で病死。
- 1406 トクタミシュが殺害される。
- 1409 シャー・ルフが第3代ティムール帝国国王となり、国内の混乱を收拾。
- 1410 明の永楽帝が第一次モンゴル遠征を行う。
- 1411 ジャライール朝、黒羊朝に滅ぼされる。
- 1414 明の永楽帝が第二次モンゴル遠征を行う。
- 1424 永楽帝、第五次モンゴル遠征途上で病死。
- 1438 キプチャク・ハン国の遺領にカザン・ハン国が成立。  
トホン・ハーン即位。チンギスハーンの子孫黄金家族ではないため、反発にあい、トゴトガ・ボハーンをタイソンハーンとし、自分がタイシになる。
- 1439 エセンがオイラート族長となる。オイラートが強大化。
- 1441 キプチャク・ハン国の遺領にクリム・ハン国が成立。
- 1449 エセン、明の遠征軍を破り正統帝を捕らえる。(土木堡の変)  
ティムール帝国の第4代国王・ウルグ・ベクが殺される。
- 1451 エセン、モンゴル族のハーン・トクタブカを殺害。
- 1453 エセン、自らハーンを称する(大元天聖ハーン)。
- 1454 エセン・ハーンが殺害され、モンゴルが分裂状態になる。
- 1469 ティムール帝国第7代国王アブー・サイード没。  
ティムール帝国がサマルカンド政権とヘラート政権に分裂する。
- 1480 モスクワ大公国がモンゴル勢力から完全に独立する。
- 1483 後のムガル帝国初代皇帝・バーブル(ティムールの直系5代目)誕生。
- 1487 バトゥ・モンケがモンゴルを再統一し、ダヤン・ハーンと称する。
- 1489 ダヤン・ハーン、明の国境を襲撃。
- 1500 ティムール帝国(サマルカンド政権)がウズベク族に滅ぼされる。  
(1507年にヘラート政権も滅亡)

## チベット年表

### 古代

旧石器時代上期[前八千年] 最初の間集落ディンリ、カモ、ナムツォ。

新石器[前五千年] 陶器、細石器。カロ、ネウドン。

鉄器時代[前二千年] 青銅、墳墓、細石器、チベット高原全域

紀元前三世紀 王国、神話系譜の始まり。

前127 ニャティ・ツェンポ、チベットに到着(チベット年代計算の始まり)

581-618 中国隋朝。

七世紀初 ナムリ・ロンツェンによる統一

608-609 中国使節団派遣

617 ソンツェン・カムポ誕生 618-902 中国唐朝。

641 中国と婚姻関係(文成公主)。

659-670 北での征服（シルクロードのオアシス、四川各地）。

704-705 ティデ・ツクツェン皇位に就く。

710 中国との婚姻関係（金成公主）。

763 長安を占領。

763-783 武威、酒泉、トウルフアン、ハミを占拠。

770 仏教定着

779 サムエ寺院の建立。

785-787 敦煌占拠。

815-838 仏教が広まり、ボン教が弾圧される。

842 ラン・ダルマ暗殺され、帝国崩壊。

氏族仏教教団時代

978 仏教再興の始まり。[960-1276 中国宋朝、南宋]

1042-1054 アティーシャのチベット滞在(仏教 後伝期)。

年代	派閥	寺院	
1056	カダム派	本山 ラデン寺	
1073	サキヤ派	本山 サキヤ寺	
1158	パクモドゥ派	本山 デンサ・ティル	
1175	ツェル派	本山 グンタン寺	
1179	ディグン派	本山 ディグン・ティル寺	
1185	タルン派	本山 タルン寺	
1187	カルマ・カギュ	本山 ツルプ寺	イスラム教徒 12 世紀末インド北部を征服する

1206 チンギス・ハーン即位、1226 モンゴルがチベット東北部を征服。

1240 クデンによるチベット侵略

1249 サキヤ・パンディタ クデンの許に赴く。

1249 サキヤ派によるチベット支配

1253 モンゴルの東チベット侵略

1253-1255 ルブルクのモンゴル滞在

1255 カルマパ二世 オゴディに受け入れられる。

1260 フビライ権力掌握 チベット人によるモンゴル人保護者探し

1271-1368 フビライが元を立て、中国皇帝になる。

1280-1281 サキヤの政治問題(?)。

1258-1290 ディグン/サキヤ戦争

1322 チャンチュブ・ギェルツェン万戸長になる。

1332-1336 カルマパ三世、元朝に赴く。

1348-1358 チャンチュブ・ギェルツェンによる領土拡張、ツェル派、ディグン派、サキヤ派の没落。

1357 ゲルク派の開祖ツォンカパの誕生。

1358 カルマパ四世、元の朝廷に迎えられる。

1358-1435 ウ・ツァンにパクモドゥ派王朝成立、行政改革。

1368-1644 元滅び、明成立。チベットからモンゴル人追放。

1407 カルマパ五世、明朝に迎えられる。

1408 ゲルク派の使節、明の朝廷に赴く。

1409 ガンデン寺の建立。モンラム・チュンモの開始。

1419 セラ寺建立。ツォンカパ死。

1430-1450 ラン氏/リンブン家の対立。

1435 パクモドゥ派、ツァンを失う。リンブン家王朝。

1480 カルマ・カギュ派とゲルク派の対立。トンユ・ドルジェのウ侵略。

1481 パクモドゥ派、ネウドン・ツェを失う。

1498-1517 シャマルパ四世の支持者によって、ラサはリンブン家の手に陥る、シャマルパ四世がウ・ツァン地方の精神指導者となる。モンラム・チュンモの中断。

1517 ゲルク派ラサ奪還。ウでゲルク派再興。

1532 イスラム教徒の西チベット侵攻。

1546 ツェル派本山グンタン寺の火災、47 年タルン派本山タルン寺の火災。

1550 アルタン・ハーン北京を脅かす。

1565 ツァンでリンブン家失墜。デパ王国誕生。

- 1566 モンゴル人仏教改宗。  
1567 アルタン・ハーン仏教に改宗。

#### ダライラマ時代

- 1578 ソナム・ギャムツォ、アルタン・ハーンに受け入れられる。ダライラマ称号の創成。  
1588 ダライラマ三世ソナム・ギャムツォ没。  
1589-1617 ダライラマ四世ユンテン・ギャムツォ。  
1601 ダライラマ四世即位。  
1605 シャマルパ四世の支持者とダライラマ四世の支持者の対立。  
ツァン・デバ・カルマ・テンスン・ワンボがウからモンゴル人を追放。  
1617-1682 ダライラマ五世ンガワン・ロブサン・ギャムツォ  
1618-1620 ツァン・デバとカルマ・カギユ派がラサを掌握。  
1620 モンゴル人とゲルク派がラサを奪還。  
1620-1630 モンゴル人保護者探し  
1624-1652 ウァパランにカトリック宣教師  
1635 アルスラン・ハーン ラサに到着。  
モンゴルにボグダ・ゲゲン化身系譜創設。  
1638 グシ・ハーン、ラサに到着。  
カムでボン教・仏教対立。  
1639-1642 グシ・ハーンによるチベット征服。  
1642 グシ・ハーンによりダライラマ五世即位。  
行政改革。  
ゲルク派実質支配。  
カルマパ十世東チベット流刑。  
1644-1911 中国清朝。  
1645 ポタラ宮殿建設開始。  
1650 パンチェンラマ化身系譜創設。  
1653 ダライラマ五世北京訪問。  
1659 ツァン反乱  
1679-1703 サンギェ・ギャムツォ摂政期間。  
1682 ダライラマ五世没、隠ぺいされる。  
1683-1706 ダライラマ六世ツァンヤン・ギャムツォ。  
1690 ダライラマ五世の死に関する中国の調査。  
1696 ダライラマ五世の死を公表。  
康熙、ジュンガル制圧。  
1700 カム地方、中国軍駐屯。  
1703 サンギェ・ギャムツォ失脚。  
1705 ホシュート部のラプサン・ハン、ラサ攻撃。  
1706 ダライラマ六世、廃位される(ホシュート部と康熙により)。  
1706-1717 傀儡ダライラマ六世エシェ・ギャムツォ。  
1717-1720 モンゴル・ジュンガル部ラサ支配 (グーシ・ハーン時代)。  
ポタラ宮殿奪還。  
清朝軍の殺戮。  
1720 ラサ解放、チベット、中国の協力、ダライラマ七世即位。  
1724 アムド、青海省に編入。  
1728 ボラネ、チベットを支配。  
ダライラマ七世、カムに流刑される。アンバン駐在、東カムチベットから切り離される。  
1735 ダライラマ七世、ラサ帰還。  
1747-1750 チベット・ジュンガル同盟  
1750 ギェルメ・ナムギェルの暗殺、反中国暴動。  
1757 ギェルツァブ職設置。  
1758-1804 ダライラマ八世。  
1764 ブリヤートにバンディダ・カンゴ設置。  
1779 パンチェンラマ六世北京訪問。  
1780 パンチェンラマ六世、死。  
1788 シャマルパ十世、ネパールへ旅立つ。

- 1791 第二次グルカ侵攻、乾隆軍チベット進軍。シャマルパ十世の財産没収。  
 1792 乾隆軍ネパール進攻、シャマルパ十世死、化身系譜禁止される。

歴代ダライラマ、パンチェンラマ

ダライラマ一世	ゲンデュン・ドゥブ	1391-1474
ダライラマ二世	ゲンデュン・ギャムツォ	1475-1542
ダライラマ三世	ソナム・ギャムツォ	1543-1588
ダライラマ四世	ユンテン・ギャムツォ	1589-1617
ダライラマ五世	ンガワン・ロブサン・ギャムツォ	1617-1682
ダライラマ六世	ツァンヤン・ギャムツォ	1683-1706
ダライラマ七世	ケルサン・ギャムツォ	1708-1757
ダライラマ八世	ジャムペル・ギャムツォ	1758-1804
ダライラマ九世	ルントク・ギャムツォ	1806-1815
ダライラマ十世	ツルティム・ギャムツォ	1816-1837
ダライラマ十一世	ケドゥブ・ギャムツォ	1838-1856
ダライラマ十二世	ティンレ・ギャムツォ	1856-1857
ダライラマ十三世	トゥブテン・ギャムツォ	1876-1933
ダライラマ十四世	テンジン・ギャムツォ	1935-

歴代パンチェンラマ

一世	ケドゥブ・ゲレク・ペルサンポ	1385-1438
二世	ソナム・チョクラン	1438-1505
三世	ロブサン・トンドゥブ	1505-1568
四世	ロブサン・チョキ・ギェルツェン	1570-1662 最初の称号保持者
五世	ロブサン・エシエ	1663-1737
六世	ロブサン・ペルデン・エシエ	1737-1780
七世	ロブサン・テンペ・ニマ	1781-1854
八世	チョキ・タクパ・テンペ・ワンチョク	1854-1882
九世	チョキ・ニマ	1882-1937
十世	ロブサン・チョキ・ギェルツェン	1938-1989
十一世	(チベット側)ギェルツェン・ノルブ	1989-
十一世	(中国側)ゲンデュン・チョキ・ニマ	1990-